

～ 元気・本気・笑顔 で挑戦！ ～



朝陽五小だより

鶴岡市立朝陽第五小学校

令和7年8月29日

令和7年度 第5号

TEL22-0514 FAX22-0462

まだまだ暑い日が続いておりますが、26日(火)から2学期が始まり、学校にまた子ども達の元気な声が帰ってきました。夏休み中に大きな事故もなく無事に始業式を迎えられたことをうれしく思っています。保護者の皆様と地域の皆様のご協力や見守り等に心より感謝申し上げます。2学期も引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

26日の始業式で、子ども達に次のような話をしました。ご紹介します。

長い夏休みでしたが、元気に過ごすことはできたでしょうか？今日またこうやって、皆さんと元気に会えたことをとても嬉しく思っています。

今日は、校長先生が夏休みに読んだ本の中から1冊紹介します。『妹ひろ子からの伝言』という本です。山田郁子さんという鶴岡に住んでいる88歳になるおばあちゃんが、子どもの頃に体験した戦争のお話です。その当時、太平洋戦争という大きな戦争がありました。今年には太平洋戦争が終わってちょうど80年という節目の年になります。山田郁子さんが5歳の時に戦争が始まり、8歳(小学3年生)の時に戦争が終わりました。皆さんと同じ小学生が体験し感じた戦争が、どんなものだったのかが描かれていました。

その中からいくつか、戦争中の生活の様子を紹介します。当時は食糧不足で食べる物がなく、大人も子どももみんなお腹を空かせていたそうです。食べる物がなかったため学校の畑にサツマイモを植え、その世話や肥料運びを子ども達でやっていました。また、当時は給食がなかったため家から弁当を持っていかなければならなかったのですが、貧しい家の子は弁当を持っていくことができず、お昼ご飯を食べないで過ごした、そんな子も少なくなかったのだそうです。とても怖かったのは空襲警報が鳴り爆撃されることでした。夜でもすぐ逃げられるように、防空頭巾を枕元に置き、普段着のまま布団で寝たそうです。空襲警報が聞こえると電燈を消し真っ暗にして、急いで防空壕に避難しました。

そんな体験をしたため、山田さんは「平和を何よりも大事にしたい。好きなものを食べ、自由に語り合えることがどんなに大切なことか、あの時代を生きてしみじみ思う」と語っています。この本を図書室に置くので、興味のある人は手に取って読んでみてください。

さて、今日から2学期が始まりますが、2学期も「安心・安全・笑顔で過ごせる学校」にしていきたいと思います。そのためにも、「相手意識」を大切にしながら過ごしてほしいと思います。どんなことを大切にしたらいいか、各クラスで話し合ってみてください。

新しく3名の友達が加わり、五小は全校児童358名でのスタートとなります。358名みんなで力を合わせ、「安心・安全・笑顔で過ごせる学校」にしていきたいと思います。